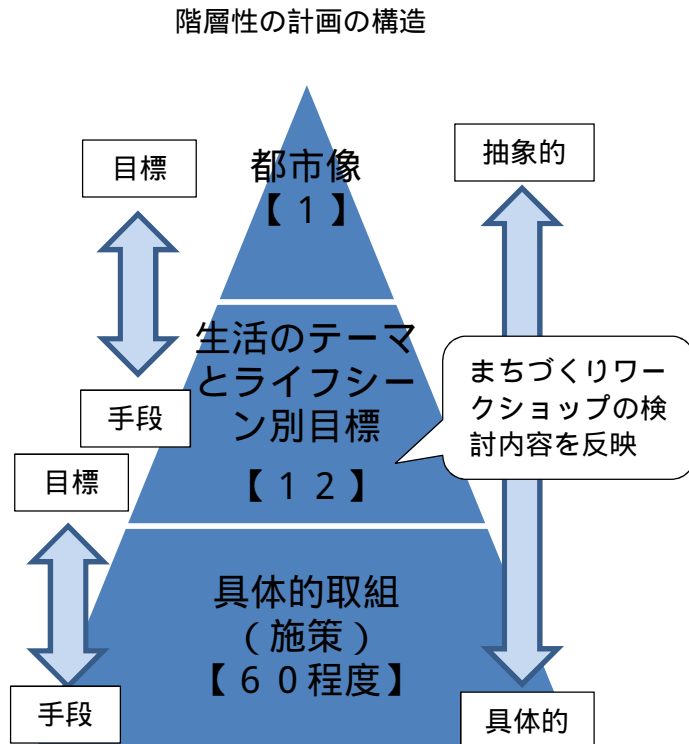


## 川西まちづくりワークショップ・第2回(平成23年9月10日)のまとめ(案)

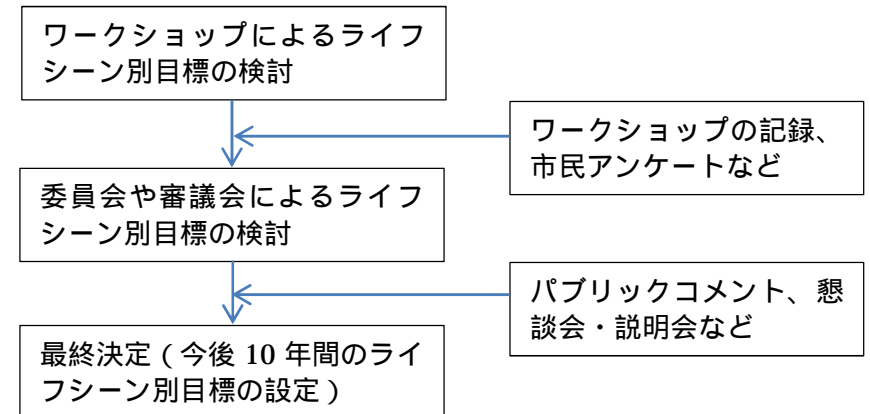
### 総合計画の構造とライフシーン別目標

- 総合計画の構造は概ね下図に示すとおりであり、都市像を実現する手段として12のライフシーンの目標があり、ライフシーンの目標を実現する手段として60程の施策があります。
- 階層が上がると数が少なくなり、下の階層のいくつかの内容をくくった新たに表現になります。このため、上の階層ほど抽象的な内容になり、下の階層へ行くほど具体的な内容になります。



### ライフシーン別目標の検討手順

- 一般的にライフシーンの目標は、極端に言えば市民の数だけあります。
- しかし、個人的または特殊な事情を一旦横に置いて、多くの人が共有できるものに絞り込んでいくと、ライフシーンの目標は収束すると考えられます。
- 前回のワークショップにおいて、皆さんに検討していただいた目標（個人的で特殊な目標はありませんでしたが）を、なるべく多くの人が共有できるものとなるよう、次ページ以降のように再構築してみました。
- 今後、委員会や審議会の検討を経て、新たな総合計画に掲げる目標を決めていきます。次ページ以降の目標の案は、そのたたき台となるものであり、仮のものです。ワークショップの記録、アンケート結果などを踏まえた今後の審議の中で修正されていきます。



## 『安らく』

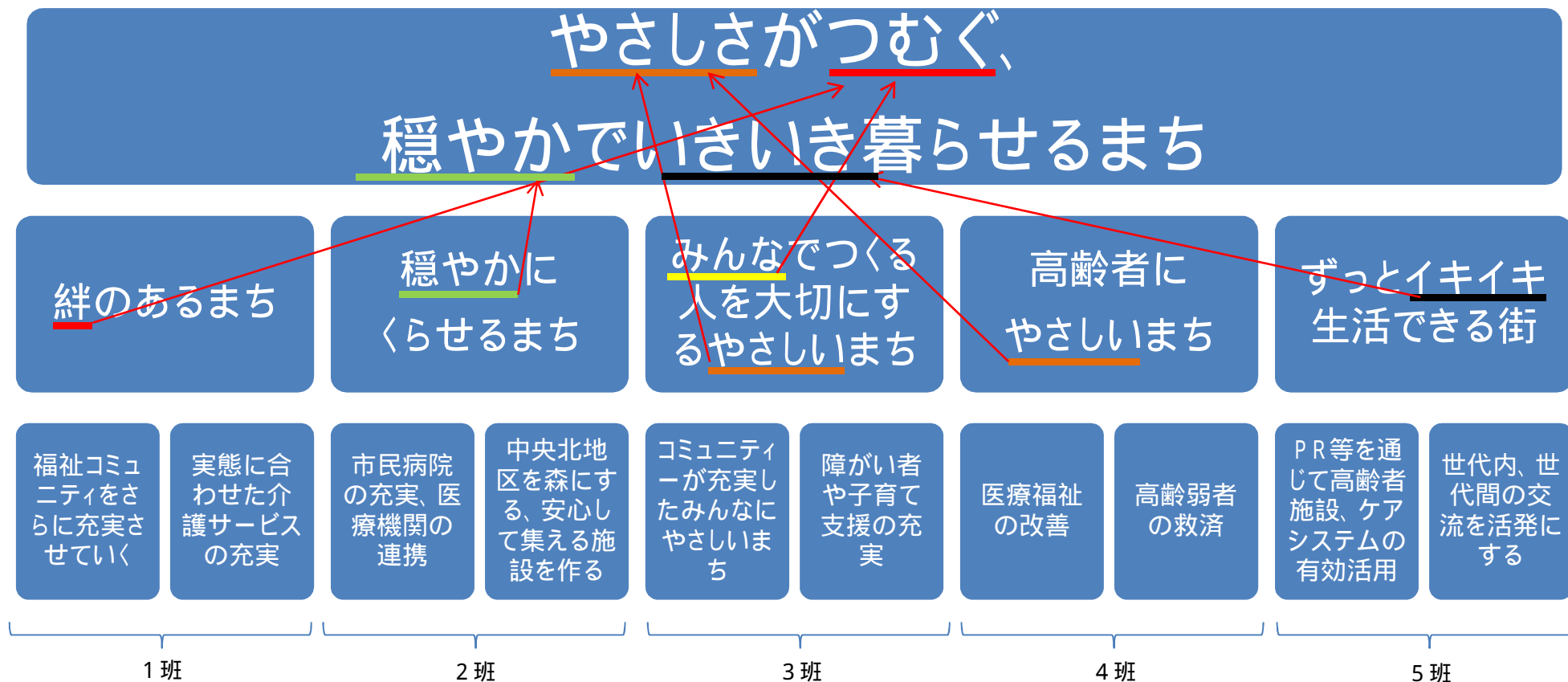
### 【ワークショップ意見の特徴】

- ニュータウンの高齢化により社会不安が高まる中で、安心して暮らせる環境が整ったまちが望まれています。
- そのためには、医療・福祉の施設やシステムが充実していることはもとより、コミュニティや世代間の交流・互助によって、日常生活における暮らしの安心感を得られることが重要ではないかという意見が聞かれました。

### 【ライフシーン『安らく』の目標】

核家族化と高齢化の進行、地縁型コミュニティの衰退は、日常生活における安心感をより高めたいという市民の思いとして現れています。そのためには、市民病院を核とした医療システムの充実、福祉施設の活用を進めるとともに、世代間とコミュニティの交流により、心の充足が健康と生きがいを生み出すまちをめざします。

2



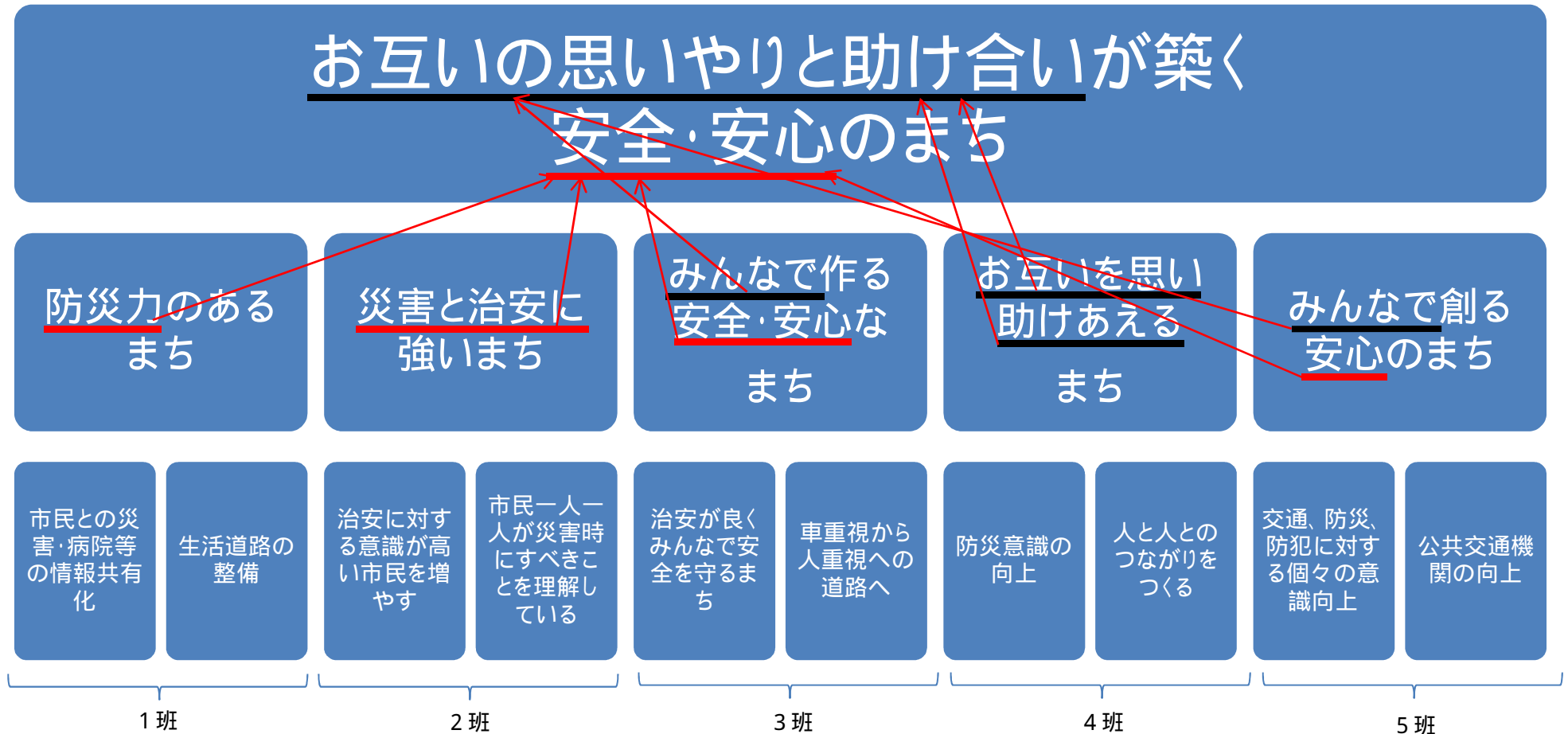
## 『備える』

### 【ワークショップ意見の特徴】

- 災害や犯罪などが比較的少ないことから、市民の防災・防犯に対する意識があまり高いとは言えないという意見が聞かれました。
- しかし、異常気象の頻発や犯罪の複雑化・広域化など、市民生活を脅かす要因はぬぐいきれないため、より安全・安心な環境が求められています。

### 【ライフシーン『備える』の目標】

安全・安心なまちをより充実するため、市民一人ひとりの意識向上により、防災・防犯に対して事前に備えるとともに、マナーやルールの遵守により事故を未然に防止するなど安全・安心のまちをめざします。



## 『守る』

### 【ワークショップ意見の特徴】

- 川西市が豊かな自然に恵まれていることを生かし、市民の自然環境に対する意識を高める必要があります。
- 美しいまちを維持するため、ごみを捨てない、捨てられない環境づくりが重要です。

### 【ライフシーン『守る』の目標】

川西市は豊かな自然と美しい街並みに恵まれています。このまちの魅力をさらに高め、次世代に引き継いでいくため、市民が創り、市民が守る機運を醸成し、美しいまちづくりをめざします。

